

『藺田憲一とデキシーキングス』コンサート

9月の秋晴れの日、福島空港に近い中学校の体育館に村内、全中学生を集めての村主催の鑑賞会に『藺田憲一とデキシーキングス』が呼ばれた。

藺田先生が亡くなって早2年。『新生！藺田憲一とデキシーキングス』としては初めての中学校公演でもあり生徒たちの反応が楽しみであった。主催者（学校・教育委員会の皆様）もコンサートを楽しみにしており雰囲気は温かく準備もスムーズに運んだ。

ジャズの好きな学校長先生の挨拶で始まったコンサートはオープニングからテンポ良く、終始スイング感たっぷりで、リーダー楠堂氏のウイットに富んだMCで和やかに進行。

『新生！キングス』では各自の個性が前面に出て、それぞれの楽器のソロが魅力的であった。筒井さんの冴え渡るトランペットの響き♪サマータイム！“歌うバンジョー弾き”こと永生さんの渋いボーカルと軽やかな演奏♪世界は日の出を待っている！白石さんの洒脱なクラリネットソロ♪星の界（よ）！市川さんのダンディズム溢れるトロンボーン♪セントジェームス病院！取は楠堂さんの♪セントルイス・ブルース！のドラムソロでは場内一瞬静まり返る迫力とテクニック。

浪曲“森の石松”流に言えば「忘れちゃいませんか」の河合さんの重厚にしてファンキーなチューバの存在感！

定番のウオッシュボードをつかっただけの♪12番街のラグ！のパフォーマンスや♪フォスターメドレーも印象的だった。

アンコール曲も終わり、客席を通過してのマーチングでは一斉にスタンディングオベーションとなり感動も頂点に。想定外の生徒の熱い声援にメンバーの中には涙ぐんだ人もいて。口々に「良いコンサートだった」を連発、最高の盛り上がりを見せた。終演後の校長先生との座談会でも音楽談義に花が咲き、校長先生・職員の見送りを受けて気持ち良く会場を後に、丘の上の校舎に夕陽が当たり清々しい。

藺田先生の素晴らしい一面はバンドを去っていったメンバーや後進の人にも惜しめない指導をしたこと、『新生！キングス』にスピリッツが継承されているプライドを感じた。

先日、日本のサッチモとの異名を持つ“外山喜雄さん”の40年前のニューオリンズのジャズマンや街の人たちを記録した新刊の※写真集&エッセーを拝見。

ハリケーンの直撃で大きく変わったジャズの聖地に対するオマージュとして秀逸な写真集でしたが、デキシーランドジャズも今や若者には古典(クラシック)となり、その音楽の持つ楽しさ豊かさは青少年の心には新鮮な滋味となる事を強く感じた Good Job! の一日でした。